①-1-1 主要国・国際機関等のニュース記事一覧

対象期間	2024年7月16日～2024年8月4日

注目記事	No.	公開日	機関名	キーワード	ニュースタイトル(原文)	ニュースポイント(短文)	内容	感染症種別	ニュース種別										リンク1	リンク2
									当該機関の戦略/方針	ワクチン開発進捗	取組		資金提供			イベント	組織設立・再編	感染症状況		
											当該機関	支援対象	重点感染症	その他疾患	外部から当該機関へ					
	1	2024/7/18	GAVI	コートジボワール、定期予防接種プログラム	Gavi and Côte d'Ivoire commit to a successful programmatic and financial transition	GAVIとコートジボワールは、2030年までにGAVIの支援による定期予防接種プログラムをコートジボワールが完全に資金を負担する持続的なプログラムに移行することに合意	GAVIとコートジボワールは、現在GAVIが支援している定期予防接種プログラムを、2030年までにコートジボワールが完全に資金を負担する持続的なプログラムに移行することに合意した。これまでGAVIの支援のもと、マラリア、HPVワクチン等の接種が進められてきた。円滑な移行を進めるため、GAVIは1億ドル以上を提供して、ワクチン接種率拡大と未接種児童への接種を進める。ワクチン調達の協調融資におけるコートジボワール政府の融資割合は2024年の34%から2030年には100%に増加する予定。	マラリア、HPV			●	●							リンク	
★	2	2024/7/18	BARDA	Project BioShield Act、MCM	Project BioShield Act at 20 Years: Sustaining Is Important, National Health Protections Are Critical	HHS(米国保健福祉省)のASPR(戦略的準備・対応準備局)が2004年に制定されたProject BioShield Actの施行20年間の成果を総括し、継続することの重要性を示した	HHS内のASPRは、2004年7月に制定されたProject BioShield (PBS) Actの施行20年間の成果を総括した。PBSのもとBARDAは官民連携を進め、国民を守るための製品開発を推進した。 20年間で120億ドル以上が投資され、39種類のMCMに対する支援が行われた。そのうち3製品は既にFDA承認を受け、PBSのもとで購入されている。さらに22製品がFDA承認手続きに進み、2製品が他の制度において承認された。合計27品目が国家備蓄に追加された。 これらの製品には、エボラ出血熱に対するワクチン・治療薬、天然痘ワクチン、6価ボツリヌス抗毒素、皮膚炭疽の抗毒素等が含まれる。	天然痘、その他	●		●								リンク	
	3	2024/7/18	IVI	IVI、カナダ、締約国	Foreign Affairs Minister Mélanie Joly announces Canada's intention to join International Vaccine Institute during official visit to headquarters in Republic of Korea	カナダのメラニー・ジョリー外務大臣がソウルのIVIを訪問し、カナダがIVIに加盟するとの意思を表明	2024年7月18日、メラニー・ジョリー・カナダ外務大臣は韓国・ソウルのIVI本部を訪問し、カナダがIVIに加盟するとの意思を表明した。IVI理事会も加盟を承認しており、今後カナダ国内の加入手続きが進められる。 カナダはこれまでにGAVI、CEPI、UNICEF、WHOとのパートナーシップを構築しており、今回のIVI加盟により、グローバルな感染症対策を推進するとともに、アジア太平洋地域でのリーダーシップを発揮していくこととしている。	-	●		●								リンク	
	4	2024/7/19	GHIT FUND	GHIT FUNDの理事会メンバー	ニコラス キャマック氏が理事会メンバーに就任しました	ウェルカムトラストの多様な創薬研究ポートフォリオを統括し、マラリア、結核等の治療薬創薬を主導してきたニコラス・キャマック氏がGHIT FUNDの理事会メンバーに就任	GHIT FUNDは、ウェルカムトラストのチーフ・リサーチ・プログラム・オフィサー(臨時)のニコラス・キャマック氏が理事会メンバーに就任したことを発表した。 キャマック氏は、ウェルカムトラストにおいて、8,000万ポンド規模のヘビ咬傷プログラムやCOVID-19治療薬開発などの重要な取り組みを率いてきたほか、英国政府の抗ウイルスタスクフォースにも携わった。ウェルカムトラスト以前は、マドリードのGSK Tres Cantos Medicines Development Campusの責任者を務め、マラリア、結核、シャーガス病、リーシュマニア症などの治療薬の創薬を主導してきた。	-	●										リンク	
	5	2024/7/22	GHIT FUND	新規公募、スクリーニングプログラム	【RFP】新規公募案件のご案内(スクリーニングプログラム)	GHIT FUNDが2024年度 第2回目のスクリーニングプログラムの公募を開始	GHIT FUNDが2024年度 第2回目のスクリーニングプログラムの公募を開始した。採択プロセスは以下の通り。 ①申請者によるContact Formの提出、②GHITマネジメントチームによる事前審査、③プロジェクトスコープについてPDP(Product Development Partner)と協議、④理事会によるスクリーニング計画の評価、⑤日本の機関・PDPs・GHITによる契約締結、⑥プロジェクト開始およびGHIT Fundによるモニタリングと評価の開始、⑦GHITマネジメントチームとPDPによるモニタリングと評価(年2回)	マラリア、結核、シャーガス病、リーシュマニア症、その他新興再興感染症	●		●		●	●					リンク	
★	6	2024/7/22	CEPI	チクングニア熱、ワクチン・アクセス、Valneva社、IXCHIQ、開発途上国	CEPI expands partnership with Valneva with $41.3 million to support broader access to world's first Chikungunya vaccine｜CEPI	CEPIが4,130万ドルを資金提供してValneva社との連携を強化し、世界初のチクングニア熱ワクチンへのアクセス拡大を支援	CEPIは、世界初のチクングニア熱ワクチン(IXCHIQ)へのアクセスを拡大するため、EUのHorizonプログラムの支援を受けて、今後5年間フランスValneva社に4,130万ドルを資金提供する。 IXCHIQは米国、カナダ、欧州で18歳以上の成人に対して承認されている。今回の資金援助により、小児や妊婦等の脆弱な集団での臨床試験が進められるとともに、アジアのLMICs(低・中所得国)におけるワクチン製造業者への技術移転が推進される。2025年からブラジルなどで数千人規模の臨床試験が開始予定となっている。	チクングニア熱		●	●			●					リンク	

★	7	2024/7/23	CEPI	Centralized Lab Network、ワクチン有効性評価	Global vaccine standardisation group discuss progress in Rome｜CEPI	CEPIによる世界ワクチン標準化グループの会合が開催され、COVID-19を始めとするワクチンの有効性評価手法標準化の進捗状況について議論	CEPIは、2020年10月、COVID-19ワクチン候補の評価方法を標準化するために、Centralized Lab Networkを設立した。同ネットワークの初めての対面会議がローマで開催され、WHO、UNICEF、ビル・ゲイツ財団など27機関から60名以上が参加した。 ネットワークでは、COVID-19ワクチンの経験をチクングニア熱、ラッサ熱、MERS等のCEPI優先感染症やエボラ熱、Mpox等へ広げており、ネットワークの活動は100日ミッションの目標達成の重要な鍵となる。	チクングニア熱、ラッサ熱、MERS、エボラ熱、Mpox等	●		●					●				リンク	
	8	2024/7/23	UKRI	AMR、学際研究	New research networks will tackle antimicrobial resistance	UKRIがAMR対策の学際研究(transdisciplinary research)ネットワークに480万ポンドの資金を提供	UKRIは、研究開発5カ年戦略の柱の1つに感染症対策を位置づけている。今回、その一環として、異なる専門分野を結集したAMR対策のための8つの新しい学際研究ネットワーク(transdisciplinary research)に480万ポンドの資金提供を行うことを決定した。 このネットワークは、文化、経済学、行動科学、生物医学・物理科学、工学、環境科学などの領域を包含する。具体的なテーマには、アグリフードシステムにおけるAMR、気候変動によるAMRへの影響、正確・迅速・頑健で経済的なワンヘルス診断、菌類のワンヘルス・AMRネットワークなどが含まれる。	薬剤耐性菌	●		●			●					リンク	
★	9	2024/7/24	MRC	研究開発戦略、公共パートナーシップ	New MRC public partnerships strategy	MRCが研究開発戦略"MRC Public Partnership Strategy 2024 to2027"を発表し、市民との連携のもと研究開発を進める方針を強化	MRCは、研究開発戦略"MRC Public Partnership Strategy 2024 to2027"を発表した。Public Partnershipとは、市民と研究者が連携して研究開発プログラムを形成し、その成果を共有することを意味している。 MRCが支援する研究は、①医療福祉施設で実施される臨床研究、②特定の地域、民族集団を対象とする公衆衛生研究、③研究所ベースでの実験・データ科学など、医療福祉施設以外で実施される非臨床研究に大別される。今回の戦略は3分野すべてに関連するが、特に非臨床研究分野でのパートナーシップ強化を目指す。	-	●		●								リンク	
★	10	2024/7/24	CEPI	100日ミッション、Disease X	The 100 Days Mission - how close are we?｜CEPI	CEPIのChief Scientific WriterであるKate Kelland氏が100日ミッションの進捗状況をレビュー	100日ミッションの現状について、CEPIのChief Scientific WriterであるKate Kelland氏がレビューした。 次のDisease Xは、ヒトの疾患を引き起こすことが知られている25種類程度のウイルス科から発生する可能性が高いことから、これらのウイルス科におけるワクチン開発の知見を集積する必要がある。CEPIは、アレナウイルス科のラッサウイルスやフニンウイルス、パラミクソウイルス科のニパウイルスのワクチン研究を支援している。 100日ミッションの目標達成にどれだけ近づいているかは、Disease Xの種類に依存する。サーベイランスネットワークやワクチン製造能力の強化が進むなど、取組みは前進しているが、まだ不十分である。	Disease X、ラッサウイルス、フニンウイルス、ニパウイルス	●		●								リンク	
	11	2024/7/24	IVI	IVIのDeputy Director General	IVI appoints Douglas Shaffer Deputy Director General	米国FDAのダグラス・シェーファー博士がIVIのGlobal Affairs & Communication部門の次長に就任	IVIは、ダグラス・シェーファー博士が、8月26日付けでIVIのGlobal Affairs & Communications部門の次長(Deputy Director General)に就任することを発表した。 シェーファー博士は、現在、米国FDAのグローバル政策・戦略局(Office of Global Policy and Strategy) の次長(Associate Director)として、レジリエントな医薬品供給網や医薬品への公平なアクセスに関して、WHOやAUDA－NEPAD(アフリカ連合開発庁－アフリカ開発のための新パートナーシップ)への助言を行っている。FDA以前は、ケニアやルワンダにおいてAIDS対策、医学教育等に携わった経歴を有する。	-	●										リンク	
	12	2024/7/26	CEPI	CEPIのdeputy CEO	CEPI appoints Aurélia Nguyen as Deputy CEO｜CEPI	GAVIでCovax FacilityのManaging Officer等を歴任したオレリア・グエン(Aurélia Nguyen)氏がCEPIのCEO代理に就任	CEPIは、10月1日付けでオレリア・グエン(Aurélia Nguyen)氏がCEO代理(deputy CEO)に就任することを発表した。 同氏は、GAVIにおいてCovax FacilityのManaging Officer等を歴任し、ワクチンプログラムの立案や新規ワクチンの供給に携わってきた。 グエン氏はCEPIのCEO代理として、CEPIの5カ年戦略であるCEPI2.0の推進を補佐する。	-	●										リンク	
★	13	2024/7/26	CEPI	ISARIC、ニパウイルス、髄膜脳炎	From silo to synergy: working together to accelerate defences against viral outbreaks｜CEPI	パンデミックに備えた迅速な研究開発を進めるため、CEPIがISARIC(The International Severe Acute Respiratory and emerging Infection Consortium)と連携してニパウイルスと髄膜脳炎に関する研究開発を開始	CEPIは、パンデミックに備えた迅速な研究開発を推進するため、治療薬開発を主目的とするISARIC(The International Severe Acute Respiratory and emerging Infection Consortium)との連携を進めている。両機関とも、感染症の流行による疾病と死亡を防ぐために、研究と能力開発に取り組んでいる。また、パンデミックの備えとしての迅速な研究対応の重要性を認識しており、「100 Days Mission」への取り組みも行っている。 こうした取組みを踏まえ、両者の共通課題であるニパウイルスと髄膜脳炎に関する協力を開始することが決定した。これにより、リソースの重複を避けて効率的な研究開発が進むことが期待される。	ニパウイルス、髄膜脳炎	●	●	●		●	●					リンク	

★	14	2024/7/29	CEPI	Mpox、コンゴ民主共和国、アフリカ、臨床試験、MVA-BN、カナダ保健研究機構（CIHR）	New clinical trial will assess if mpox vaccination works after virus exposure｜CEPI	CEPIはカナダ保健研究機構（CIHR）と共同で、コンゴ民主共和国を中心に行われるMpoxワクチンの臨床試験を支援	CEPIは、カナダ保健研究機構（Canadian Institutes for Health Research）と共同で490万ドルを拠出して、Mpoxワクチンの臨床試験を支援する。 臨床試験は、Bavarian Nordic社のMVA-BNワクチンを用いてコンゴ民主共和国、ウガンダ、ナイジェリアで実施される。10歳以上の参加者1500名以上を対象とし、Mpoxウイルス暴露後のワクチン接種がMpoxの発症と死亡を低減できるか検証する。 臨床試験で得られた知見は、アフリカにおけるMpoxアウトブレイク対策に貢献すると期待される。	Mpox		●	●		●							リンク	
★	15	2024/7/29	WHO	H5N1ウイルス、MPP（Medicines Patent Pool）、mRNAワクチン、Sinergium Biotech社	New initiative launched to advance mRNA vaccine development against human avian influenza（H5N1）	WHOがMPP（Medicines Patent Pool）と共同で鳥インフルエンザウイルスH5N1に対するmRNAワクチン開発の新規プロジェクトを開始し、アルゼンチンのSinergium Biotech社が開発したワクチン候補が非臨床試験を実施	WHOは、MPP（Medicines Patent Pool）と共同で、2021年から低・中所得国におけるmRNAワクチンの開発・製造能力を向上させるためのプロジェクトmRNA Technology Transfer Programmeを実施している。 その一環として、鳥インフルエンザH5N1ウイルスワクチンの開発プロジェクトを開始した。アルゼンチンのSinergium Biotech社が開発したH5N1のワクチン候補を対象に非臨床動物モデルでproof-of-conceptを得るとともに製造技術の移転を行う。	インフルエンザ	●	●	●		●							リンク	
★	16	2024/7/29	BARDA	BARDA、MCM、開発実績	Preparedness and Response—Global Regulatory Approvals for Medical Countermeasures Highlight Improved Capability	BARDAが、FDA承認91件を含むMCMの開発実績について報告	BARDAは、BARDAの助成を受けたMCMの開発実績をとりまとめた。 それによれば、2024年7月1日現在、91件のプロダクトが米国FDAの承認（ライセンス、クリアランスを含む）を受けた。さらに世界各国の規制当局の承認を受けたプロダクトは、COVID-19関連、非COVID-19関連で、それぞれ140件以上、50件以上である。WHOの事前承認または緊急使用承認リストに掲載されたプロダクトは10件以上となっている。これらの中には、エボラ出血熱ワクチンや抗菌薬XERAVA（エラバサイクリン）が含まれる。	感染症全般	●		●		●	●						リンク	
	17	2024/7/29	BARDA	Project NextGen、Rapid Response Partnership Vehicle、コロナウイルス感染症、ワクチン、フレッドハッチ癌研究センター	BARDA announces award through the Rapid Response Partnership Vehicle to Fred Hutch Cancer Center to support Project NextGen clinical trials	BARDAがProject NextGenの一環として、フレッドハッチ癌研究センターによるコロナウイルス感染症ワクチンの臨床試験に1700万ドルを助成	BARDAは、フレッドハッチ癌研究センターによるワクチン臨床試験に1700万ドルを助成することを発表した。これは、次世代のCOVID-19ワクチン、治療薬を開発するためのProject NextGenの一環として行われる。 フレッドハッチ癌研究センターは、Rapid Response Partnership Vehicleコンソーシアムを通じて資金を受け、2件の分散型臨床試験（DCT）を通じたコロナウイルス感染症のワクチン予防効果の相関関係（Correlates of Protection）の評価および複数の次世代ワクチンのPhase 2b試験を実施する。	コロナウイルス感染症			●		●							リンク	
	18	2024/7/30	CEPI	世界パンデミック対策サミット、将来的なパンデミック	Global Summit reinvigorates efforts to prepare for future pandemics｜CEPI	ブラジル保健省、Oswaldo Cruz財団（Fiocruz）、CEPIの共同共催により世界パンデミック対策サミット2024（Global Pandemic Preparedness Summit 2024）が開催	2024年7月29日、30日にブラジル保健省、Oswaldo Cruz財団（Fiocruz）、CEPIの共同共催により、世界パンデミック対策サミット2024がリオデジャネイロで開催された。 サミットではCOVID-19の教訓とその後の進捗、100日ミッション等についての議論が行われた。さらに、グローバル・ノースとサウスの国々の連携を強化し、低・中所得国のMCMへのアクセスを促進するためリオデジャネイロ宣言の署名が行われた。	感染症全般			●					●				リンク	
★	19	2024/8/1	WHO、CEPI	将来的なパンデミック、研究戦略	CEPI and WHO urge broader research strategy for countries to prepare for the next pandemic	CEPIとWHOが、次のパンデミックに備えるため、各国がより広範な研究戦略を採用するように要請	2024年8月1日、CEPIとWHOは世界各国の研究者と政府に対して、次のパンデミックに備えた研究開発を強化・加速するよう呼びかけた。現在認識されているパンデミックのリスクによらず、人に感染する病原体ファミリー全体を網羅するように研究範囲を拡大するとともに、個々の病原体にフォーカスする重要性を強調した。 2024年7月にリオデジャネイロで開催された世界パンデミック対策サミット2024では、「疫病のための研究開発計画」（R & D Blueprint for Epidemics）が発表された。この中では、研究が進んでいる既知の病原体をプロトタイプとしながら、病原体の研究範囲を広げていくことが推奨されている。	感染症全般	●		●									リンク	リンク

注目記事星取ルール
ワクチンの開発状況
ワクチンや重点感染症に関するFAの戦略/方針
ワクチン開発関連において新規技術の活用